

「前立腺がん」の特別講演

日医・県医生涯教育認定講座、県病薬生涯研修認定講座

主催：鹿児島大学医学部泌尿器科学教室・メディポリス国際陽子線治療センター

共催：鹿児島県病院薬剤師会

(日本薬剤師研修センター認定申請中/日病薬病院薬学認定薬剤師制度に基づいた研修会申請中)

後援：公益社団法人鹿児島県医師会

2018年4月12日(木) 19:00～20:30

鹿児島県医師会館 3階 中ホール 鹿児島市中央町8-1



座長：中川 昌之 先生

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 腫瘍学講座 泌尿器科学分野 教授



第①部 19:00～19:45

前立腺がんのリスク分類と治療選択

講師：榎田 英樹 / 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 腫瘍学講座 泌尿器科学分野 准教授

国立がんセンターによれば2015年以降の推計がん罹患数で前立腺癌は年間約10万人で第一位となった。この要因としてPSA検査の普及により早期前立腺がんの発見が増えたことや、食生活の欧米化などが挙げられている。前立腺がんと診断されても、その悪性度やステージに基づくリスク分類によって予後が全く異なるため、治療方針については個別に熟考されるべきである。前立腺がんの治療としては手術・放射線・ホルモン治療などがあるが、それぞれに多くの選択肢がある。臨床試験の数も多く、毎年のように新規治療法が開発されている。泌尿器科医の使命は多くの選択肢の中から個々の患者に適切な治療の提案を行うことであると考える。本講演ではリスク別の治療法の選択とその根拠について解説したい。



第②部 19:45～20:30

前立腺がんに対する陽子線治療

講師：荻野 尚 / メディポリス国際陽子線治療センター センター長

がんの放射線治療において、治療成績を向上するための効果的な方法のひとつは、線量を病巣のみに集中させることである。これにより局所制御が向上するのみならず、病巣周囲の正常組織への線量も必然的に少なくなり、放射線による有害事象は減少して、QOLの高い治療が可能となる。陽子線の物理的特性は体表面近くではあまり線量を出さずに、到達飛程終端で一挙に線量を放出することである。これをBragg peak (ブラッグピーク) と呼ぶが、この優れた線量集中性を利用すれば上記の目的を達成することが可能である。現在では世界で約60施設、日本国内だけでも18施設で稼働中である。いままでの治療成績等について紹介したい。特に前立腺がんは今年4月より保険収載となったことにより、当センターへの対応についても説明したい。

問合：一般社団法人メディポリス医学研究所 TEL 099-202-0074

メディポリス医学研究所行き FAX：099-263-8870

「前立腺がん」の特別講演会(4/12)出席申込書

医療機関名：

代表者氏名：

参加申込者

名

※医師、薬剤師以外の医療関係者も出席できます。 ※4/10までにFAX申込をお願いします。